

令和7年度 美術館自主事業(企画展)実績一覧

No.	事業名	会 期・会 場	内 容	鑑賞者数
1	OPAM開館10周年記念 LINKS—大分と、世界と。	2025年4月26日(土) ～6月22日(日) 展示室A コレクション 展示室	大分県立美術館は2025年4月に開館10周年を迎えました。当館のコンセプトである「出会いと五感のミュージアム」にちなみ、人と人、人と作品との「出会い」をテーマとした企画展を開催しました。作家同士の交流や、作家と作品との「出会い」が生んだ近代以降の美術の軌跡を、名品や新発見資料とともに紹介しました。パブロ・ピカソが監修した《ゲルニカ(タピスリ)》(後期5/23～6/22のみ展示)をハイライトに、歴史的作品の数々と、大分ならではの新発見資料を交えた見応えある内容としました。大分にはじまり、視点を日本さらには世界へと広げ、「出会い」が生んだいくつもの感性の「つながり」＝“LINKS”をお楽しみいただきました。 (展示点数: 約180点)	34,202
2	生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫 と新しい世界	2025年7月6日(日)～ 8月17日(日) 展示室B	「大正ロマン」を象徴する画家であり、詩人でもあった竹久夢二。1884(明治17)年に岡山県で生まれた夢二は、正規の美術教育を受けることなく独学で自身の画風を確立し、「夢二式」と称される叙情的な美人画によって人気を博しました。本展は、新発見された大正中期の名画《アマリリス》、滞米中に描かれた貴重な油彩画《西海岸の裸婦》、そして夢二を看取った友人に遺したスケッチ帖や素描など、初公開資料を含む約180点の作品を夢二郷土美術館コレクションを中心にご紹介しました。 (展示点数: 約180点)	10,230
3	チームラボ 学ぶ！未来の遊園地 と、花と共に生きる動物たち	2025年7月19日(土) ～9月14日(日) 展示室A	チームラボは、2001年から東京大学大学院生を中心に活動を開始したアート集団。アーティスト、プログラマ、エンジニア、CGアニメーター、数学者、建築家など、様々な分野のスペシャリストから構成されています。本展は、チームラボの作品《花と共に生きる動物たち》のほか、「共創」(共同的な創造性)をコンセプトにした教育的なプロジェクトであり、他者と共に世界を自由に創造することを楽しむ「学ぶ！未来の遊園地」から、《スケッチ環世界》、《世界とつながったお絵かき水族館》など8種類のプログラムを体験いただきました。	100,287
4	OPAM開館10周年記念 きらめく日本美術 1300年の至宝 展	2025年11月22日(土) ～2026年1月14日 (水) 展示室B コレクション展示室	古代から近世の豊前・豊後地域の古美術に焦点をあてた開館10周年記念展。八幡信仰、禪宗、大友宗麟、南蛮、豊後南画等々の美術を横断的に特集し、周縁に位置する大分の美術が、中心地の美術と関連しながらもまた異なる特徴を持ち、豊かに拡がっていく様相をご紹介しました。大友宗麟が所持した現存する三つの茶道具がすべて揃う史上初の展示となりました。また2025年は、八幡大神の宇佐神宮御鎮座1300年の記念年でもあり、こうした大分の豊かな文化風土の歴史を紐解き、そこに育まれた美術の魅力や価値を再発見することを通して、現代の私たちに繋がるかけがえのない精神文化の軌跡をたどっていただく貴重な機会となりました。 (展示点数: 約200点)	13,540
5	金曜ロードショーとジブリ展	2026年1月17日(土) ～3月31日(火) 展示室A	高畑勲や宮崎駿らによる名作アニメーションの数々を世に送り出してきたスタジオジブリ。その作品が広く愛されるようになったきっかけの一つが、日本テレビの映画番組「金曜ロードショー」でした。1986年に「風の谷のナウシカ」を初放映して以来、数々のスタジオジブリ作品を放映し続けています。本展では、スタジオジブリ作品の公開年、そして「金曜ロードショー」で初放送された年がどんな時代だったのかを振り返りながら、映画の魅力に迫りました。映画の世界に飛び込めるような展示空間や、圧巻のクオリティーで「廣海」を表現した「風の谷のナウシカ王蟲の世界」など、驚きと発見に満ちた迫力のある展示空間を体感いただきました。	199,337